

漁海況速報

3-No. 17

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和3年 7月16日～ 7月29日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

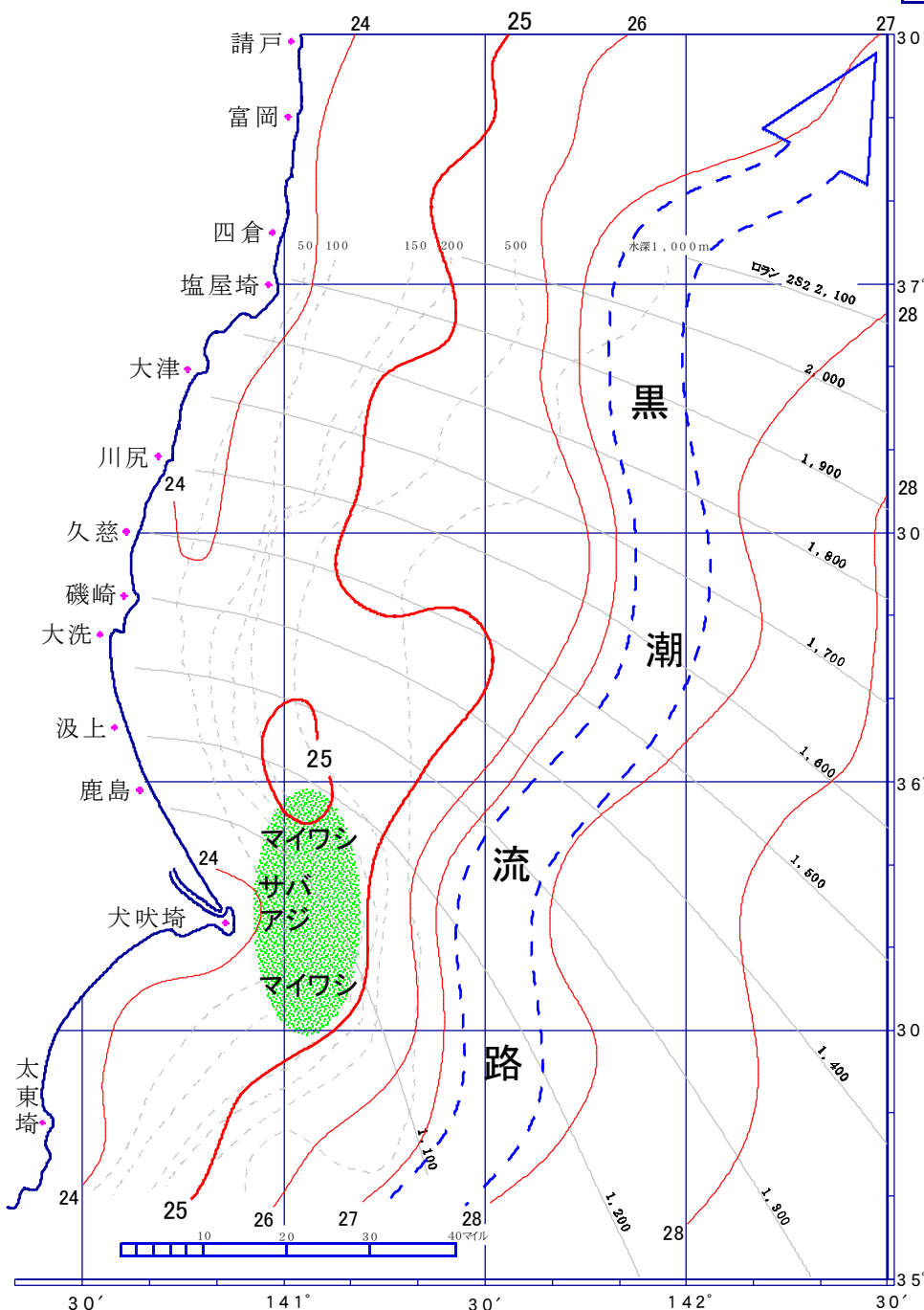
那珂湊定地水温 (°C)

日	年	令3	令2	平年
7/16		21.3	17.3	19.6
17		21.8	17.7	19.7
18		22.0	18.0	19.8
19		22.1	欠測	19.9
20		22.0	19.1	20.0
21		22.0	18.7	20.2
22		22.0	18.8	20.3
平均		21.9	18.3	19.9

日	年	令3	令2	平年
7/23		22.2	19.0	20.4
24		22.0	欠測	20.5
25		22.0	19.2	20.6
26		22.0	欠測	20.7
27		22.7	19.5	20.8
28		23.3	19.4	20.9
29		23.2	19.2	20.9
平均		22.5	19.3	20.7

【海況図説明】

- 黒潮は、犬吠埼の東30マイル付近を北北東に流れ、
37°30' N 142°30' E付近を流去している。
- 本県沿岸域は、23～25℃台の水温となっている。

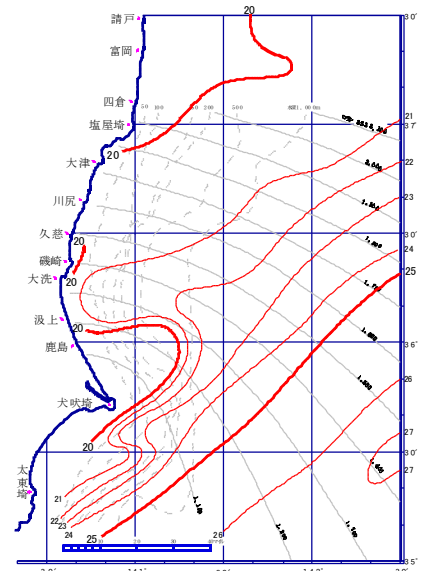
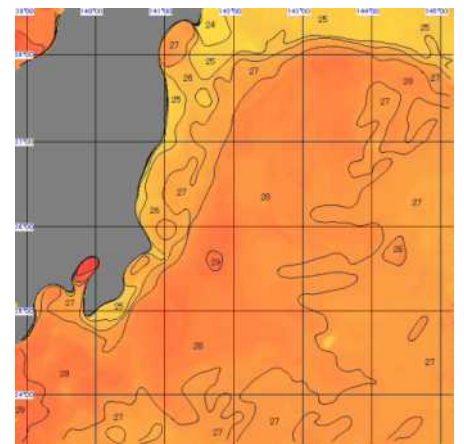


【海況図】

30年平均: 1991～2020年

令和3年 7月23日～ 7月29日

【1週間合成衛星画像】



令和 2年 7月24日～ 7月30日

【海況図】

漁況の特徴

3-No.17

属地、単位＝四捨五入

7/15～7/28

◎ まき網

(漁獲は1投網当り)

マイワシ・・・八戸の北東30マイル付近から岩手久慈の南南東20マイル付近で1～130トン、鹿島の東20マイル付近から犬吠埼の南東10マイル付近で1～20トンの漁獲。

サバ・・・犬吠埼の北北東10マイル付近から東北東15マイル付近で1～30トンの漁獲。

アジ・・・犬吠埼の北北東10マイル付近から東5マイル付近で1～20トンの漁獲。

◎ 小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から矢指地先で35～840kg、日立地先で50～1,047kg、大洗地先から鹿島地先で20～910kg、波崎地先で63～863kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先から高戸地先でヒラメ2～7kg、久慈浜地先から銚田地先でヒラメ1～10kg、イナダ1～5kg、マゴチ1～8kg、サワラ2～5kgの漁獲。

魚種	漁法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数	
シラス	船曳網	大津	27,492	263	7,222,379	163	
		久慈浜丸小	11,571	382	4,415,621	26	
		久慈町	12,688	398	5,046,297	21	
		那珂湊	1,202	437	525,000	2	
		大洗町	117,831	389	45,819,270	200	
		はさき	13,206	446	5,884,522	44	
ヒラメ	固定式刺網	大津	111	675	75,210		
		久慈町	29	472	13,650		
		那珂湊	586	821	481,075		
		大洗町	211	993	208,990		
		久慈町	37	659	24,260		
	その他釣り	那珂湊	312	1,225	382,639		
	大型定置網	会瀬	6	1,365	7,506		
イシガレイ	固定式刺網	大津	6	150	825		
		那珂湊	3	1,116	3,460		
		大洗町	3	292	760		
マコガレイ	固定式刺網	大津	6	300	1,920		
		那珂湊	5	1,482	6,819		
		大洗町	2	1,909	4,200		
イシモチ	固定式刺網	大洗町	34	322	10,990		
タイ類	固定式刺網	大津	33	538	17,765		
		那珂湊	42	700	29,405		
		大洗町	8	994	7,950		
		その他釣り	大津	8	1,000	8,200	
		大洗町	10	660	6,800		
	大型定置網	会瀬	6	1,042	6,252		
スズキ	固定式刺網	大津	3	400	1,200		
		那珂湊	1	1,000	1,100		
アイナメ	固定式刺網	大津	5	450	2,250		
		那珂湊	5	1,070	5,350		
		その他釣り	大津	2	1,500	3,600	
イセエビ	固定式刺網	大津	1,502	2,409	3,619,640		
		久慈町	285	2,570	731,180		
		那珂湊	987	1,667	1,645,350		
		大洗町	30	1,533	45,210		
		はさき	135	2,198	297,160		
スルメイカ	固定式刺網	大津	1	1,500	1,500		
ヤリイカ	大型定置網	会瀬	2	2,067	4,754		
シヨウサイフグ	大型定置網	会瀬	10	150	1,500		
ホウボウ	固定式刺網	大津	7	386	2,700		
		那珂湊	3	2,600	7,800		
		大洗町	27	1,142	31,050		
ハマグリ	貝桁網	はさき	10,684	801	8,561,004		
マアジ	まき網	はさき	3,564	60	213,840		
サバ	大型定置網	会瀬	281	135	37,884		
ブリ類	固定式刺網	那珂湊	4	200	800		
		久慈町	278	155	43,072		
	その他釣り	那珂湊	52	303	15,582		
	大型定置網	会瀬	88	293	25,862		
カツオ	その他釣り	那珂湊	107	351	37,580		

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

令和2年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和2年漁期（令和2年9月～令和3年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚げ金額

令和2年漁期の漁獲量は約3,000トン、水揚げ金額は12.7億円となり、漁獲量、水揚げ金額ともに前年漁期と比べてやや増加しました（図1）。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚げ金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500トン以上、12～14億円で推移しており、令和2年漁期もこの傾向は続きました。

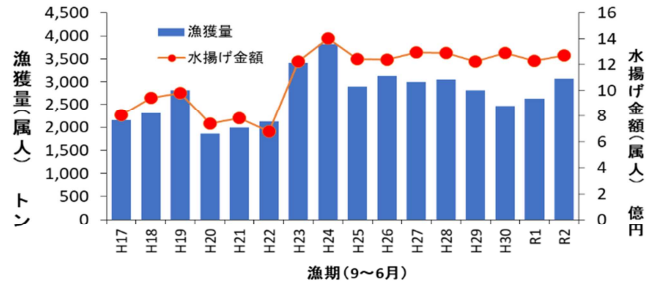


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚げ金額の推移

2. 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種

令和2年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位ヤリイカ1,305トン（前年漁期786トン、1位）、2位メヒカリ324トン（同311トン、2位）、3位スルメイカ212トン（同105トン、5位）、4位アナゴ129トン（同198トン、3位）、5位ヤナギダコ98トン（同97トン、6位）でした（図2）。前年漁期と比べると、ヤリイカ、メヒカリ、スルメイカ、ヤナギダコは増加しましたが、アナゴや前年漁期4位であったヒラメ（今漁期90トン、前年漁期146トン）は減少しました。

水揚げ金額の上位5種はヤリイカ、メヒカリ、スルメイカ、ヒラメ、アナゴの順となり、前年漁期に比べてヤリイカとスルメイカ以外の3種は減少しました。

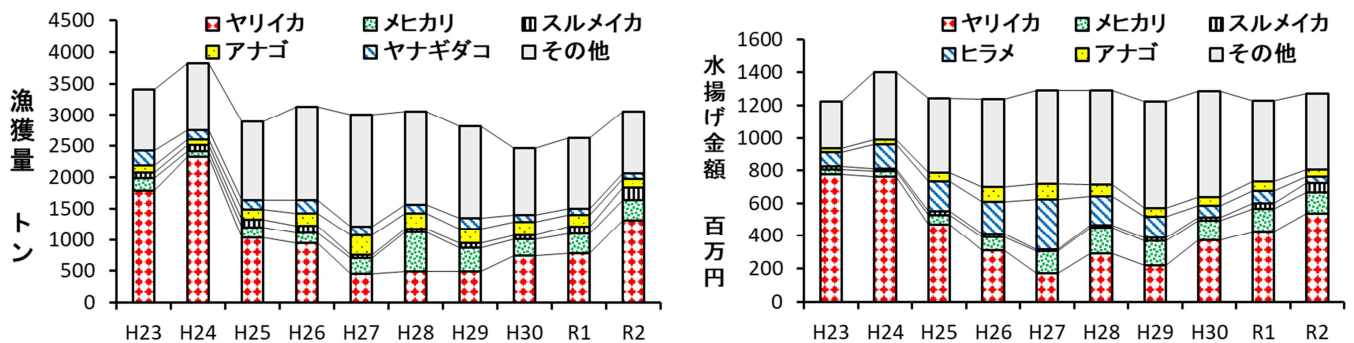


図2 漁獲量及び水揚げ金額で主体となった魚種の推移

3. 三陸から鹿島灘海域におけるヤリイカの漁獲動向

宮城県から千葉県へのヤリイカの漁獲量（全漁法）は、平成26年漁期以降、約1,300～3,500トンの間で変動しています（図3）。宮城海域の漁獲量は、平成28年漁期から増加し、平成30年漁期には約2,100トンに達しましたが、令和2年漁期は約1,500トンに留まりました（図3）。一方、茨城・千葉海域の漁獲量は、令和2年漁期は12月から漁獲量が増加し、毎月350トン前後の漁獲が3月まで続いたことにより、前年漁期のおよそ1.5倍の約1,700トン（前年漁期約1,100トン）となりました（図3、4）。

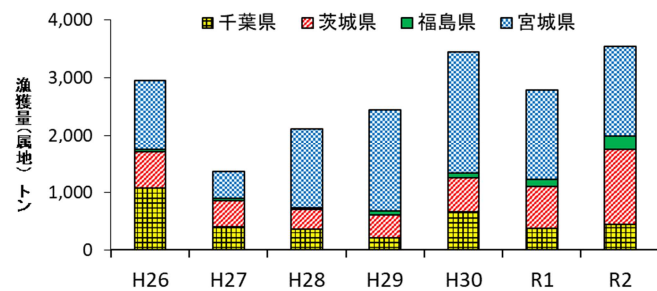


図3 県別ヤリイカ漁獲量の推移

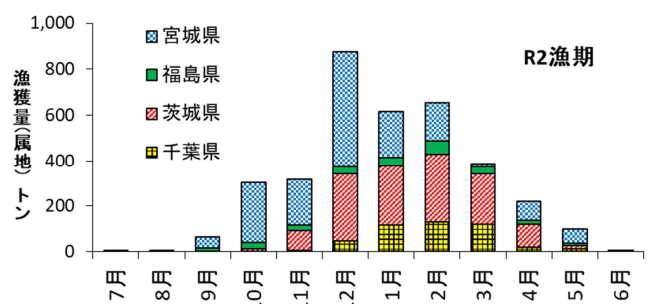


図4 県別・月別ヤリイカ漁獲量の推移

【次回予告】 令和3年8月6日発行の水産の窓は「春シラスの海況経過と秋シラスの予測」を予定しています。

春シラスの漁況経過と秋シラスの予測

(1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスは、4月上旬に漁獲が始まりましたが、その後は低調に推移し、漁期末の7月17日以降に大洗～鹿島沖を中心に増加しました(図1)。漁獲量は1,017トン(7/30速報値)となり、前年(2,548トン)、過去5年平均(2,014トン)を大きく下回り、水産の窓3-No.4でお知らせした予測数量(1,300~1,800トン)からも大きく外れました(図2)。

これまで水産試験場では、春シラスは黒潮からの暖水波及により運ばれてきた卵や仔魚がシラス漁に結びつき、水温が高いほど漁獲量が増加すると考えてきました。今年の漁場水温は、平年よりもやや高めで推移し、シラス漁にとって好適な環境となりましたが、漁獲は低調に推移しました。また、近年は沖合に分布する卵が少ないにもかかわらず、春シラスが好調に推移する傾向がみられており、このことは、春シラスには水温以外の要因が考えられ、特に知見の少ない本県地先(30m以浅)に生息するカタクチイワシの産卵状況が影響していることが考えられました。現在、水産試験場では、このカタクチイワシの産卵状況の調査・研究に取り組んでいます。

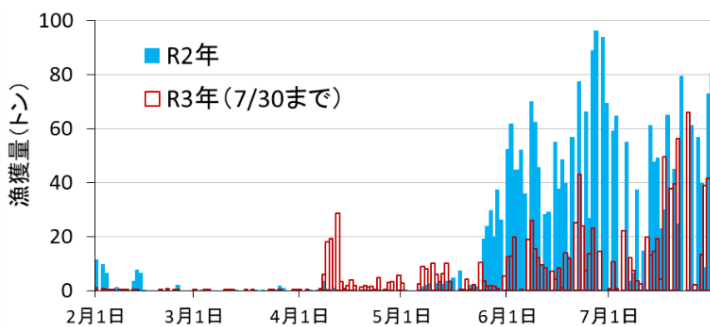


図1. シラス日別漁獲量の推移

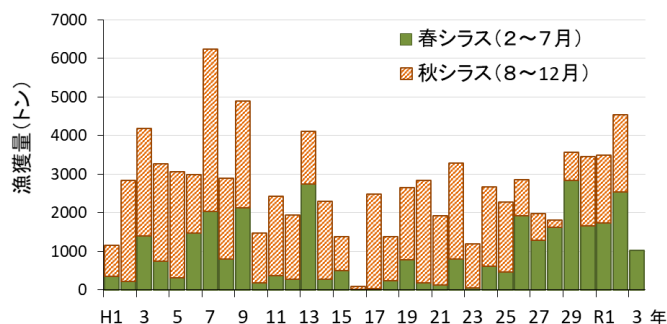


図2. シラス漁獲量の推移

(2) 秋シラス(8~12月)の予測

秋シラスの漁獲量は8~9月に多く、10月以降は減少傾向にあります(図3)。また、8~9月の漁獲量は、7月の水温が高いほど減少する傾向にあり、この関係を基に今年7月の水温から8~9月の漁獲量を予測すると650トンとなります(図4)。さらに、10~12月の漁獲量は、8~9月の漁獲量と正の相関関係にあることから、650トンを基に予測すると250トンとなります。

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の合計漁獲量は **900トン程度(前年1,986トン、過去5年平均1,261トンを下回る)**と予測します。

7月の水温が低いほど8~9月の漁獲量が増加する関係については、親潮系冷水域のカタクチイワシ卵は水温が15.0~15.5℃の海域に多いという知見から、本県沿岸に親潮系冷水が差し込むような海況になると卵・仔魚が多く分布するようになり、その後のシラス漁につながる可能性が考えられます。

(回遊性資源部 高橋 佑太郎)

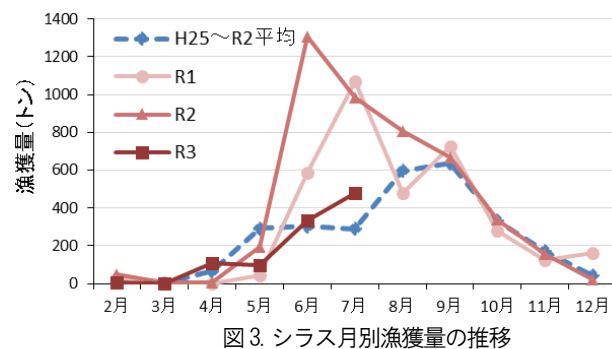


図3. シラス月別漁獲量の推移

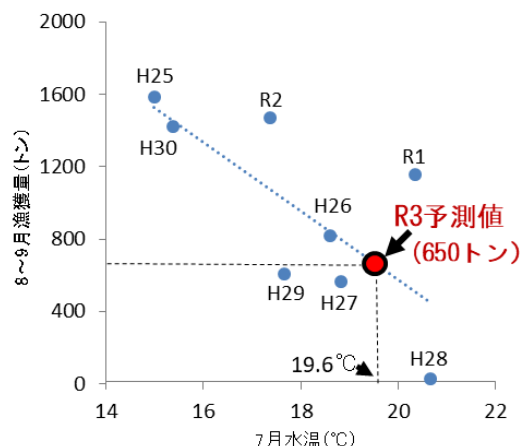


図4. 7月海洋観測(会瀬~犬吠埼水深30m地点)10m深水温平均値と8~9月シラス漁獲量の関係(H25~R2年)